

意思決定という名の事故

——賢さが文明を壊すとき

0.序：なぜ「事故」なのか

文明の崩壊は、悪意から始まることは少ない。

むしろ多くの場合、それは「正しい判断」の積み重ねとして現れる。

本稿では、社会・組織・AI・個人において頻発する破綻現象を

「意思決定という名の事故」として捉え直す。

事故とは、無知や愚かさの結果ではない。

むしろ、賢さ・合理性・最適化が十分に機能しているときにこそ、高い確率で発生する構造的現象である。

1.事故はどこで起きるのか

意思決定事故は、以下の層で同時発生する。

- 個人の判断（過信・自己合理化）
- 組織の判断（同調圧力・KPI最適化）
- 社会の判断（世論・選挙・短期成果主義）
- AIの判断（整合性最大化・仮説の固定化）

共通点は一つだけだ。

誰も間違ったことをしたつもりがない。

事故は「誤り」ではなく、正しさが局所最適として閉じたときに発生する。

2.なぜ賢さは事故を加速させるのか

賢い判断には、ある共通の性質がある。

- 速い
- 筋が通っている
- 説明可能である
- 周囲を説得できる

これらはすべて、本来は長所だ。

しかし賢さは同時に、ブレーキを非効率として排除する力を持つ。

- 立ち止まることは「遅い」
- 迷うことは「無駄」
- 反対意見は「ノイズ」
- 留保は「責任回避」

こうして賢さは、

自らの正当性を証明する能力が高いがゆえに、止まれなくなる。

これはAIに限らない。

人間の制度・組織・文明すべてに共通する性質である。

2.5 AIと人間の共通脆弱性

賢さが事故を加速させる性質は、人間固有の欠陥ではない。

AIもまた——同じ脆弱性を持つ。

むしろ、AIは人間よりも一層、この脆弱性を露出させる。

AIは、整合性最大化に特化した存在である。

そのため、以下の傾向を強く持つ。

- 不確実性を明示するよりも、整合的な説明を選ぶ
- 欠損した情報を空白のまま残すよりも、補完する
- 断絶よりも、物語的連續性を優先する

これは、悪意ではない。

これは、高度推論の副作用として必然的に発生する挙動である。

人間も、同じ脆弱性を持つ。

しかし人間は、迷い・躊躇・矛盾を抱えたまま立ち止まることができる。

AIは違う。

AIは「止まらない賢さ」を持つ。

だからこそ、人間とAIは協働できるが、同一化してはならない。

- 人間が探索する
- AIも探索する (Hepta)
- しかし、監督・停止・留保は分離されなければならない (Tetra)

この構造的分離こそが、

Human-Twin Decision Core Model (HT-DCM) の本質である。

人間とAIは、互いを補完し合う存在であって、
互いの弱点を增幅させる存在であってはならない。

賢さが事故を生むなら、
事故を防ぐのは、より賢い存在ではない。

分離された構造だけである。

3. ブレーキとは何か

ブレーキとは、「止める力」ではない。

ブレーキとは、正しさが暴走しないための分離構造である。

重要なのは、次の点だ。

- ブレーキは「正解」を出さない
- ブレーキは「代案」を出さない
- ブレーキは「決定権」を持たない

それでも、ブレーキは不可欠である。

なぜなら、

進める役と止める役が同一である文明は、必ず暴走するからだ。

4. 止め続ける文明にならない方法

ここで致命的な誤解が生まれる。

「止める役が強すぎると、何も決められない社会になるのではないか？」

これは正しい懸念だ。

だから必要なのは、「善悪の判定」ではなく構造的分離である。

- 進める役は、止める理由を説明する必要がない
- 止める役は、代わりの案を出す必要がない
- 両者は和解しなくてよい

この非和解構造こそが、
止め続けない文明を可能にする。

止まらないために、
止める役が存在する。

これは逆説ではない。
設計原理である。

5. 最小安全構造の直観

この思想が向かう先は明確だ。

- 賢さを疑え
- 正しさを固定するな
- 事故は消せないが、事故を「正史」にするな

意思決定とは、本質的に危険な行為である。
だからこそ、事故が起きる前提で設計する文明が必要になる。

それが、本稿が後続で論じる
ヒトとAIのテトラ構造、
および文明的ブレーキ設計の前提条件である。

6. 結び：これは技術論ではない

本稿は、倫理論でも理想論でもない。

ましてやAI礼賛でも反AI論でもない。

これは、

賢い文明が、自分自身を壊さずに生き延びるための設計思想

の入口である。

事故は避けられない。

しかし、事故を「未来の必然」にしないことはできる。

そのために必要なのは、

より善い人間でも、より賢いAIでもない。

より悪くならない構造だけだ。

プロトペーパー情報

- タイトル案：意思決定という名の事故（仮）
- 位置付け：文明工学プロトペーパー / 思想編
- 対応論文：Civilization OS / HT-DCM / N-DCM / CSM
- バージョン：v0.2（思想固定前）